

21世紀へ視野がっちり



市ヶ谷キャンパスの正面（右側が1号館）

市ヶ谷キャンパスの顔

社会人大学院生の 新たな都心拠点！

鈴木康司学長が4月7日の市ヶ谷キャンパス開校式の挨拶のなかで、「外観は地味だが、中身は最新式で充実している。いかにも中央大学のイメージにぴったりの建物」とおっしゃった。その市ヶ谷キャンパスは、「社会人大学院生の授業、研究開発、国家試験」のための都心拠点とするため、アジア経済研究所の敷地・建物を買収したものだ。当面は駿河台で実施していた社会人大学院の授業等を展開しているが、将来的にはロースクールなど専門大学院の展開を見据えたキャンパスは、21世紀にふさわしい施設と注目されている。（学生記者 杉村麻衣子、竹尾智成）

◎申し分ない立地と施設

地下鉄の都営新宿線「曙橋」から徒歩3分、JR市ヶ谷駅から徒歩13分のところにある「市ヶ谷キャンパス」。高層ビルが建ち並ぶ坂の多い街に、6階建の1号館と9階建の2

号館が、つながって建っている。多摩キャンパスの広大な敷地と自然に馴染んでしまっている私たちの目には、新キャンパスは大学というより、都心のオフィスビルのように見えた。しかし、建物の中に入ってみると、

「落ちついて勉強できる場所」というのが第一印象だった。

いままで駿河台記念館で行っていた社会人大学院の授業は、授業の当日まで教室も決まらない状態だった。少人数なのに大教室を使わざるを得なかったり、とかく不満も出ていたが、ここ市ヶ谷は小ささまざまな部屋が用意されている。総合事務室の小林事務長は「小さい教室は10人、14人、16人といった具合。大きな教室は最大141人の部屋まであります」と説明してくれた。パーティーションで仕切られていたというアジア経済研究所当時の建物構造が幸いしたらしい。

また、遠隔授業装置も市ヶ谷に移設され、教室数も2つから3つに増やした。部屋には大きなスクリーンが1つ。テレビ画面がコの字型に配置された机に8台、教卓に1台設置され、個々の机には小型カメラと質問ボタンが付いている。質問する時このボタンを押せば小型カメラによって質問者の顔が映し出され、双方向での対話が可能になる。

市ヶ谷で講義を受けた学生が、次の時限を多摩で受けるのは到底無理



長内 了先生
(前法学部長)

ここで、実際に市ヶ谷キャンパスを使い始めた先生方を代表して、前法学部長の長内了先生に登場していただいた。

まず、市ヶ谷キャンパスの第一印象について、長内先生は「情報環境

期待できる」からである。

さらに先生は「市ヶ谷キャンパスから、こんな人材が出て欲しい」という思いを込めて、次のように語ってくれた。「法的サービスへの社会的需要は今後確実に高まっていきませんが、弁護士ほとんどが大都市圏に集中している現状では、無医村にも似た状況が全国各地で慢性化しています。例えていえば「開業医」の絶対量の不足です。他方で、高度に専門化され組織化されて欧米のロ

市ヶ谷キャンパス 私の期待

の整備に向けた関係者の強い意欲を感じた」という。「すべての中大生がIT革命の恩恵を享受できる体制が整うまでには、まだ相当の時間が必要だが、市ヶ谷の経験はきつと力強い牽引車になってくれるだろう」という期待がその背後にある。また、遠隔授業システムの充実も、うれしい出来事の一つだ。「多摩キャンパスを主たる活動拠点とする教員が市ヶ谷キャンパスでの授業を展開しやすくなら、社会人大学院の充実が

ロースクール構想 ぜひ実現させたい



総合政策研究科の授業風景

ファーム(法律事務所)と対等にわたり合うためには、大学病院の「専門医集団」の存在が不可欠です。しかし、わが国の現状は、この点でもお寒い限りです。そして、こうした状況を克服する有力な方策として浮上してきたのがロースクール構想であり、市ヶ谷キャンパスは、中央大ロースクールの拠点になります。実現までにはさまざまな困難が予想されますが、私は歯を食いしばってでも、やり遂げなければならぬ課題であると思っています。

先生のお話は21世紀に向けた中大の力強いメッセージに聞こえた。

だ。遠隔授業はそんな不便を一気に解消してくれるシステムである。現在、週に17講義が行われており、これは市ヶ谷で開講されている講義全体の17%に当たる。

さらに、市ヶ谷キャンパスは研究開発機構の拠点でもある。これは産官学の連携を推進する組織で、学外からの資金提供を受けながら、研究の活性化を図っている。つまり、企業と中大で共同研究開発を行い、その成果を社会に還元するもので、いままでは理工学部キャンパスだけで実績を上げてきたが、市ヶ谷に研究開発機構が組織されたことにより、現在3つのプロジェクトがここで進められている。

◎マルチメディア・キャンパス

市ヶ谷キャンパスのもう一つの大きな特色に、情報インフラがある。そもそも仕事を持つ社会人学生にとって、ネットワーク環境はきわめて身近な存在であり、一般大学生に比べてニーズは高い。そこで、NECと共同開発した「市ヶ谷キャンパスネット」というサービスページを開設し、「マルチメディア・キャン

パス」をめざしている。

ハード面の整備としては、パソコン室にデスクトップ40台、貸出し用ノートパソコン40台が用意されている。駿河台では20台だったパソコンがこのように充実したのも「マルチメディア・キャンパス」に向けてのインフラ整備であり、すべての機器に「Microsoft Office 2000PRO」ソフトがインストールされている。

パソコン室は9時30分～21時30分

まで自由に使える。貸出し用ノートパソコンは談話室などにモジュールが設置され、好きなところで使える配慮がうれしい。また、自宅からノートパソコンを持ってきて使うことも可能だ。

市ヶ谷キャンパスが他のキャンパスに先駆けて設置しているのは、それだけではない。個人の履修科目ごとに休講情報もネット配信する予定とか。また、先生がネット上で掲示板をつくり、その情報を受信できる

ほか、こちらからのアクセスも可能だ。ゼミでなくても掲示板を通じ、先生から指導を受けたり意見交換をすることもできる。

◎電子情報提供にも積極的

市ヶ谷キャンパスの活用については、これからの利用状況を見ながら整備していく。例えば、これらの管理を統括する「総合事務室」も、その名のとおり、さまざまな業務が集約された事務室で、この窓口ですべてに対応している。図書室についても、蔵書数はいまはまだ少ないが、多摩や後楽園の図書館から蔵書を取り寄せたり、電子情報の提供にも積極的だ。月～土は9～22時まで、日祝日も10～18時まで開いている。

これらは完全なオープン・キャンパスの理想に基づいている。門がないから、その分、安全対策にも気を使うが、それでも小林事務長は「市ヶ谷を利用する人は、皆さん、お客さんですからね」といわれた。

すばらしい立地とすばらしい施設……いずれも21世紀にふさわしい。私たちの感性も21世紀についていかなければ、と実感した。



談話室もゆつたり

遠隔授業の教室